

宮崎県市町村・地域づくり団体等協働モデル事業

ふるさと教育体験活動強化事業

特定非営利活動法人
ひむか感動体験ワールド

延岡市

事業名：ふるさと教育体験活動強化事業

1. 【団体の概要】

特定非営利活動法人ひむか感動体験ワールド（ノベ☆スタ）は、宮崎県北部を中心に海・山・川などの多様な自然アクティビティを案内する団体である。単なるアクティビティの案内にとどまらず、学校との連携、自然環境の保全、滞在型観光の推進などにも取り組み、地域への貢献を目指している。団体の構成メンバーは現在 22 名であり、県北の自然の魅力を広く伝え、地域活性化を図ることを目的としている。

2. 【事業の目的、ねらい】

現在、延岡市では教育施策の一環として「ふるさと教育・体験活動の充実」を掲げ、自然体験や創作活動などを通じてふるさと学習の推進が行われている。しかし、事業費の制約から小規模校に偏った実施となり、大規模校での実施が少ない現状がある。また、学校によっては貧困家庭の割合が高く、日常的に様々な体験をすることが困難なケースも存在している。本事業では、こうした環境にある学童に体験の場を提供できるとともに、その有効性を示すことによって、今後の事業費の拡大を図り、施策の目標を達成することを目的としている。

3. 【活動内容】

本事業では、事前講話及びカヤック体験を実施した。令和6年7月3日（水）には、延岡市立岡富中学校1年生を対象に体験活動に向けた事前講話を行った。この講話では、体験の意義や安全面について説明し、参加者の理解を深めた。

その後、7月18日（木）及び19日（金）にわたり、岡富中学校の1年生に対してカヤック体験を実施した。具体的には、18日には1年1組（生徒24名、引率2名）と1年2組（生徒27名、引率1名）を対象に、19日には1年3組（生徒27名、引率1名）と1年4組（生徒27名、引率2名）を対象に、それぞれ午前と午後に分けてカヤック体験を行った。

体験活動を通じて、参加者は自然と触れ合いながら、協力し合ってカヤックを操作する楽しさを実感した。また、事業終了後には参加者から「新しい体験ができてよかった」、「今後もこうした活動に参加したい」といった前向きな感想が寄せられ、活動の有効性が確認できた。



体験に関わる事前講話

令和6年7月3日（水）10:00～ 延岡市立岡富中学校1学年



カヤック体験 令和6年7月18日(木) 9:30~12:00
延岡市立岡富中学校1年1組26名(生徒24名・引率2名)



カヤック体験 令和6年7月18日(木) 13:00~15:30
延岡市立岡富中学校1年2組28名(生徒27名・引率1名)



カヤック体験 令和6年7月19日(金) 9:30~12:00
延岡市立岡富中学校1年3組28名(生徒27名・引率1名)



カヤック体験 令和6年7月19日(金) 13:00~15:30
延岡市立岡富中学校1年4組29名(生徒27名・引率2名)

4. 【事業の成果、効果】

今回の実施において、ほとんどの生徒がカヤック体験を行ったことがなく、その貴重な機会を得られた点が大きな成果である。実際にカヤックを見て触れて体験することで、身近にある素晴らしい地域資源の存在に気づき、それを守っていく必要があるという意識が芽生えている様子がうかがえた。さらに、体験を通じて自然の楽しさだけでなく、自然の厳しさ、例えば「身を守る」といった重要な視点についても考える機会を提供することができた。

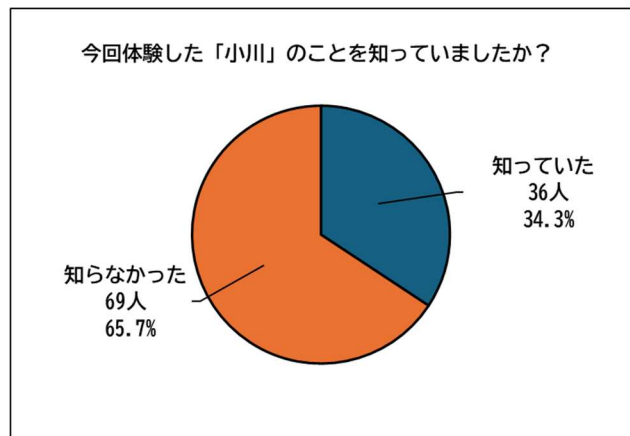
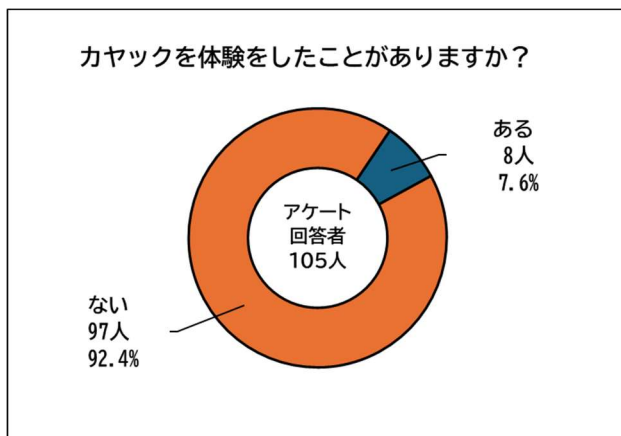
本事業の実績を市に報告した結果、事業予算の増額には至らなかった。しかし、予算削減が予定されていたものの、それが保留となり、次年度も同額での実施が決定された。今回対象となった学校では、複数の予算を活用することにより、来年度の7月22日及び23日に体験活動を実施することが決まっている。他の学校でも民間の補助金を独自に確保し、体験事業を継続的に実施する動きが見られるようになった。

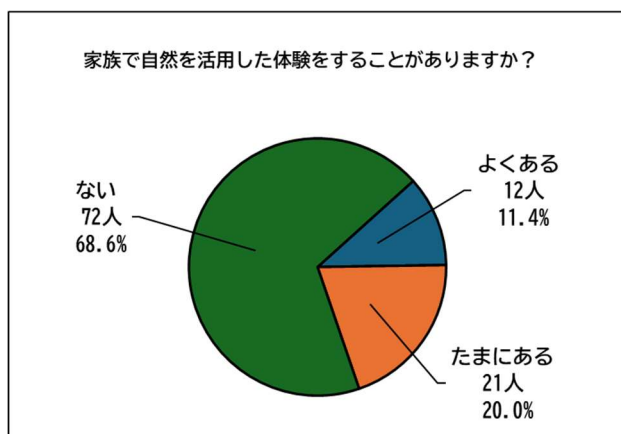
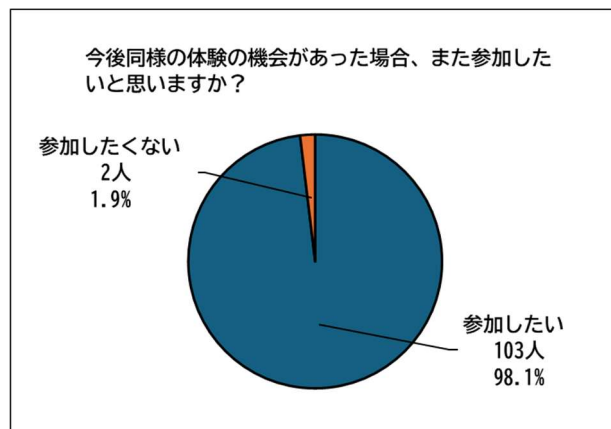
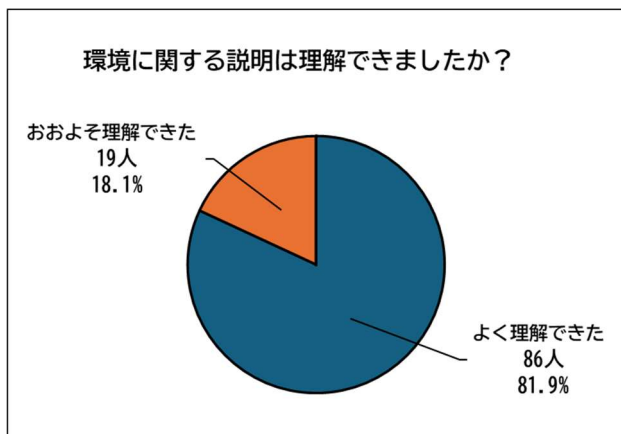
また、当団体には九州管内の河川を活用した活動を行っている事業所等からの問い合わせも増加しており、モデルケースとして注目されている。

ふるさと教育体験活動強化事業 アンケート結果

今後は地域の自然環境への理解を深める活動や、家庭や地域での自然体験の機会を増やすことが大切だと感じた。生徒たちが身近な自然に触れ、学ぶことで、もっと地域の環境に関心を持ち、理解が深まると考えている。

また、カヤック体験を通じて生徒たちの関心を引き続き高め、環境学習がさらに広がっていくことを期待している。





- ・多くの生徒がカヤック体験を初めて行ったことから、体験型学習の効果が大きかったと考えられる。特に「また参加したい」という意見が多く、体験を通じて学びの興味や関心が高まったと考える。
- ・地域の河川に対する認知度が低かったことから、地域の河川に関する知識を深めるためにも環境教育が重要であり、地域に対する愛着や自然環境への意識向上につながると期待できる。
- ・環境に関する説明がほとんどの生徒に理解されていたことから、環境学習は効果的に行われた

と評価できる。

- ・家庭での自然体験が少ないことが分かったことから、家庭外での自然に触れる機会を提供する学校や地域の役割が大きいと考える。

5. 【まとめ】

近年、子どもたちは自然に触れる機会が減少しており、そのために自然環境と関わる活動や、地域で活躍する人々も少なくなってきた。このような活動を増やし、継続していくことが、地域資源の活用や再認識、さらには地域の人々の活躍につながると考える。また、子どもたちにとっては、自己防衛にもつながる「生きる力」を培う機会ともなり得る。

今後、予測できない異常気象が発生することは明らかであり、海や山、川を含めた災害に関する学び、特に「流域治水」といった知識につながることが期待される。このような体験を通じて、子どもたちの防災意識を高めるとともに、自然環境への理解を深めることができるだろう。